

課題先進地の挑戦 Well-beingにあふれる持続可能なまち

秋田県大仙市（2022年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

大仙市は、平成17年の合併以来、将来都市像の実現に向けたまちづくりを進め、地域の維持・発展の素地を形づくってきたが、依然として人口減少・少子高齢化をはじめとする多くの課題を抱える、いわば「課題先進地」となっている。こうした現状を踏まえ、これまでの取組にSDGsの視点を取り入れ、その着実な実施とさらなる拡充・展開を図りつつも、DXやGXの推進など、時流を捉えた新たな取組にも積極果敢にチャレンジし、今を生きる私たちだけではなく、将来世代もWell-beingを実感できる、未来に向けて持続発展するまちづくりに取り組んでいく。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

自然環境の保全・継承や地域経済産業の振興、誰もがいきいきと輝き健康で幸せに暮らせる地域社会の構築などの取組を進め、Well-beingにあふれた未来に向けて持続発展する都市を目指していく。特に、Well-beingの土台となる健幸づくりの推進や、将来を担う若者がチャレンジできる環境づくり、SDGsの実現に向けたひとづくり・まちづくりなど、三側面にわたる統合的取組を推進し、市民が活躍し、若者が躍動する持続的な好循環のもと、「市全体のWell-beingの創造」と「持続発展可能なまちづくり」に取り組んでいく。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

【若者チャレンジ応援プロジェクト】

夢や希望に向かってチャレンジする若者や、地域の課題解決・活性化のため行動を起こそうとする若者を地域全体で応援する「土壌づくり」と「人づくり」を進めている。その推進拠点として「だいせんLabo」を開設し、伴走型の相談支援と若者チャレンジ応援補助金などにより、若者の取組を総合的にサポート。

【健幸まちづくりプロジェクト】

タニタグループ3社と連携し、全市民と市内通勤者約8万人を対象に、「日本一健幸なまち」を目指して取組を進めている全国初の官民連携による大規模ヘルスケア事業。同グループの活動量計を活用し、様々なイベントの開催や健幸ポイントなどのインセンティブにより、無理なく楽しみながら健康づくりに取り組める環境を創出し、健幸寿命の延伸などにつなげていく。

5. 取組推進の工夫

市のあらゆる事業や取組とSDGsを関連付け、全庁横断的に取組を推進している。また、市民など一人一人に「自分のこと」として考え、行動に移していただくため、様々な機会を捉えて普及啓発に努めるとともに、企業や団体など多様なステークホルダーと連携しながら取組を推進している。

8. 他地域への展開状況 (普及効果)

市のSDGsに関する取組について、様々な媒体を通じて市内外に発信しているほか、県外自治体の視察受け入れや、東北各地のSDGs未来都市に選定された自治体で構成する「東北SDGs未来都市ネットワーク」において情報交換を行った。

6. 取組成果

【若者チャレンジ応援プロジェクト】

多様な主体の協力のもと、若者の様々な相談に応じながら、総合的にサポートを行っているほか、市民向けのセミナーや、大学生・高校生と連携したワークショップなども開催している。

・相談実績

令和4、5年度の合計で「だいせんLabo」に97件の相談が寄せられ、うち22件が起業や創業、事業の拡大、課題の解決などにつながっており、件数はともに増加傾向となっている。

・若者チャレンジ応援補助金

若者のチャレンジを後押しする補助金制度は、計6件の事業を採択している。一部タイプでは、ガバメントクラウドファンディングを導入し、市民をはじめとした民間の資金を活用しながら支援を行っており、地域全体で若者のチャレンジを応援する「土壌づくり」にもつながっている。

【健幸まちづくりプロジェクト】

健幸ポイントを活用した取組や、ウォーキング、運動講座などのイベントの開催、体重や体組成、血圧などを測定できる健幸スポットの増設など様々な取組を進めており、着実にプロジェクトへの参加が拡大している。【参加者数】26,714人【参加企業数】391社(R6.3.15現在)

7. 今後の展開策

各主体のSDGsに関する取組を「見える化」することで、広く横展開を図るなど、引き続き普及啓発活動に注力し、SDGsの輪をさらに広げ、市民一人一人の理解と行動変容を促していく。また、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングなどを通じた民間資金の活用を含め、多様なステークホルダーとの連携を強化しながら取組を進めていく。